

アジア・太平洋地域におけるソーシャルワークの現在と未来」

シンガポール

シンガポールの社会福祉と社会福祉事業の発展：傾向と将来性

タン ニョ ティオン (国立シンガポール大学助教授)

訳：谷口純世 (本会国際協力員)

シンガポール：社会的、政治的文化的状況

シンガポールは 1963 年に英国から、その後 1965 年にはマレーシアから独立しました。この 40 年という短期間で、シンガポールの急速な社会的経済的発展は、アジアの経済的奇跡となりました。2004 年の GNP は急激に 42,581 シンガポールドルにまで増えています (これは米ドル 25,450 に相当します)。

他民族からなるシンガポールの社会¹は、先進国に加わる地位にまで急速に発展しています。人口の 90% の 4,200 万人が住宅を所有しています (DOS,2005)。大きな功績としては、平均余命の向上や高い識字率、低い幼児死亡率や犯罪率、増加するボランティアへの参加があります。アメリカ合衆国や日本といった他の民主主義国が「福祉国家」と言われる国民や家族に対する福祉の供給体制を非常に区別し発展したのに対し、シンガポールは非民主、非産業国 (Titmus,1974) に特有の、みかけは残存しているシステムでの福祉供給を続けています。

シンガポールの成功は、社会的経済的目標を達成するための官僚政治国の政策上のリーダーシップと計画にあります (Vasil,2000)。シンガポールの状況での社会福祉発展の根本方針はたいてい、住居供給、健康、教育、コミュニティの結びつきといった基本的問題を扱う実地的な考え方です。

¹ シンガポールの人口は、中国系が 77%、マレー系が 14%、インド系が 8% である (DOS,2005)。

この論文では、シンガポールの福祉の発展、特に家族の発展や家族へのサービスについて論じます。

植民地時代の福祉から現代のソーシャルケアへ

シンガポールの社会福祉とコミュニティの発展のかなり長い歴史が証明しているように、シンガポール政府は社会の発展に強く関係があります。第二次世界大戦の前は、福祉供給の責任は、慈善的博愛的なグループが担っていました。戦争直後の1946年には、国民の福祉に政府の関与を促進するため、**Social Welfare Department** が設立されました。シンガポールの社会政策計画の原則は、「一層大きな自由の中で社会的進歩と生活水準の向上を促進すること」という国連憲章の前文に明示されています (**Ministry of Social Affairs,1973:23**)。

他の国の政治的経済的未発達から、政府は社会の発展は経済的発展次第だと気づいていました。したがって、経済的目標は社会目標と均衡が取れていなければなりません。そしてこの目標は政府にとっては経済発展を危うくせずに「完全な発展計画のある社会状況において広い枠組みをもたらすことが適切」なのです (**Ministry of Social Affairs,1973:3**)。この目標を達成するために、シンガポールの状況に合わせた社会政策が考案されました。

西洋の福祉国家の失敗、福祉国家の出現を緊急に具体化する政策上の主条件や歴史的発展、すなわち、「政府助成金政策」の実施によって他の民主主義国家のように選ばれた政府による投票数獲得のための公的資金の濫用、政府の介入を必要とする大恐慌の時期のような悲惨な経済状況を見るなかで、シンガポールは英国の歩みにならい、多くの現代の先進国の福祉システムを採用すべきかどうかについて考えました。

大臣は **Lee Kuan Yew** 首相にそう思っていないと助言しました。実際、福祉国家固有の問題に理解のあったシンガポールの **Lee** 首相は、「少数の例外的能力によってすべての人々が利益を得られるようにするために、優れたものは報いられ尊敬されるべき英国が、現在より少数の学理上の愚案を満たすために、能力ある少数を酷使するということを教えてくれた」1977年の変化を深く後悔していました。**Lee** 首相は人々にゆりかごから墓場まで、胎内から墓場まで支給される政府の政策を拒否しました。

当時衛生大臣だった **Aline Wong** 博士は、福祉国家の福祉の供給は「耐え難い経済負担になるだけではなく…社会の構造そのものを壊してしまう」と言いました (**Singapore International Foundation,1993**)。このような信念は、コミュニティのさほど能力のない部門への施しへの否定に基づいていました。最近の首相が再び、低所得シンガポール人の援

助というこの原則について「我々はこれを続けねばならない…、我々は福祉ではなく『勤労福祉制度』に向かいます。これはあなた方が働いていれば、自助に備えていれば、努力していれば、我々はあなた方が成功するよう援助しましょうということです」と述べています (Lee,2005,9)。

この経済発展と社会の発展の2つの目標は、まったく正反対ではありません。シンガポールは、多くの助け手を促進することによって、どちらをも妥協することなくこの2つを両立させる独創的な政策を編み出しました (The Government of Singapore,1991)。政府は直ちに、ソーシャルサポートが潜在的に強い資源になることに加え、福祉の部分的な代理となりうることに気づきました。これは、流行に乗っている現代の民主主義国が、国の経済的、社会的、心理学的なコストによって迷いから覚めている今日は特に、政府の福祉供給にとって申し分のない解決策です。この非公式な援助方法によって、政府は結合力ある地域集合体を形づくる個人のウェルビーイングを保障するため、国民や家族員ネットワークにかかわる国民、地域組織、宗教グループ、ボランティアグループと協働しています。その重要な活動家は、National Council of Social Services により調整されていた 150 の NGO や宗教団体からなる市民社会に加えて、the Malay organization of Mendaki や SINDA、the Singapore Indian Development Association といった地域のセルフヘルプグループです。政府はソーシャルサービスを提供しているネットワークの主力として両方の責務をあやつり、民間の活動を支援する触媒やファシリテーターとなって、これらの重要な活動家たちを残しています。高齢者、障害者、貧困者への援助の主なパートナーは Voluntary Welfare Organizations (VWOs) で、いろいろな援助の形を指導管理するための方向性は地域により示されていました。

結局、援助の伝統は人々の大きなネットワークに促進されてきました。多くの援助の手によって、援助を必要とする家族へのサービスを提供する各部門はより少ない負担ですみます。このことは「シンガポールは西洋的意味合いにおいて福祉国家ではないが、南東アジアにおいてもっとも良い、国家公認・管理のメディカルサービスである」と言われています (Josey,1979)。これは特に家族員の健康、住宅供給、教育といった分野においては満足できるレベルのソーシャルサービスを供給するためには介入が必要であるという政府の信念から生じています。このような認識はこれらの領域に関連する社会政策の構造では明らかかなことです。

シンガポールは、「gotong royong」あるいは「地域のセルフヘルプ」の精神を強く奨励しています (Government of Singapore,1991)。市民のニーズを満たすために、人々は市長とともに Community Development Councils によって地理的にグループ化されています。コミュニティセンターは異なるコミュニティのニーズを満たす活動のためのセンターとして設

立されています。そして **Citizen's Consultative Committees**、**Community Center management Committees**、**Residents' Committees** は増大するコミュニティのニーズに対して供給し、特定の目標を進めるために設置されています。それらはまた、所属意識やコミュニティ精神を促進することも目的としています。このようにして、重要な援助資源として機能し、コミュニティを活気づけているのです。地域を基盤としたサービス供給の中央集権制は、異なるコミュニティのニーズに応えるために、より効率的な基盤をもたらすことを示しています。

National Volunteer Centre により、ボランティアへの参加は発展し、最大限に活用されています。学校は学生に、**Community Involvement Program** を通して、さまざまな組織でボランティアをすることをすすめています。退職者や主婦も潜在的ボランティアであるとされています (**Straits Times**, 16th Sept 1996)。慈善事業やボランティア活動との協働は、国の発展に大きく寄与しつづけています。

家族の成長の向上と支援

地方、人種、言語、その他のものであろうと、家族ほど大きな影響力をもち、普遍的なグループはほとんどありません。このため、家族のうち特に拡大家族は、本来の支援システムにおいて援助の理想的資源です。実際、拡大家族のなかで形成されている相互扶助は、保障の供給源であり、どんな社会的保障システムより伝統的なものであるという、信頼できる助力者の宝庫です (**Macarov**, 1978)。この機能を果たす能力のあるのは拡大家族であり、拡大家族システムが弱いと、国は必然的に社会福祉の強力な供給者により補わなければなりません。このため、ソーシャルサポートの主要な位置を占めるものとして、そして家族員にとって最前線の守備として、家族システムを強めることは非常に重要です。

政府はこのメッセージを家庭に届けるため、ペアレンティングや家族生活についてのさまざまな公的教育プログラムを展開しました。しかし、これはまた家族単位が崩壊する他の調整的基準も使いました。**Family Service center** は支援のための資源として家族の効力を維持するため、家族の生活に助言や支援を提供するために、多くの地域に設立されました。高齢者の支援のために、家族は再び主たる責任を期待されています。法律上、1995年の **the Maintenance of Parents Act** は、成人した子どもたちが年老いた親を経済的に支援することを保障するための最後の頼みであると制定されていました。

シンガポールの国政はこのように、家族単位を維持することと、それを堅く結びついた、強い、弾力的な自信を持ったものとして保ち続けることを目標にしています。この方法は、

家族員の全体的な発展の中で家族の能力を強化します。シンガポールは国として、多くのスローガンを通して、結婚、出産、健康的な家族と家族生活を促進しています (MCD,1995)。しかし、現実には援助の必要な人々が常にいます。多くの家族は、身内の資源を使うことで外部の介入なしに協力しています。しかし、外部資源が家族の状況にとっての力となったり、家族が楽になったりする状況や事情もあります。

ほとんどのシンガポール人は進展や成長という目標に向かっていくことができます。離婚家庭や、共働き家庭の子どもの増加や、10代の自殺未遂の増加、少年非行の増加、高齢者の援助必要性の増加といった、政策立案者やソーシャルワーカー、サービス計画者からみとめられた傾向がないことはありません。

このような懸念は、1995年に設立された **Inter-ministry Committee on Juvenile Delinquency** や **Family Dysfunction and Drug Abuse (IMC)** においても出されています。これらの懸念はより多くのニーズと、ニーズを満たすための金銭、人材、サービスに関する資源配分を生み出します。シンガポールはニーズを満たすために、4つの計略を立てました (Ang,1997.2)。それは、a) 高齢者を心身ともに活発にし、家族がともに時間を過ごすことのできる活動をつくるなど予防的開発的サービスを提供すること、b) 高齢者が互いに支援し合い、良い養護を供給できるよう、共同のセルフヘルプグループを立ち上げることを奨励し、問題に直面する前に問題の予防に取り組むこと、c) トレーニングを実施することや、障害者に適した仕事を見つけ、不利な状況におかれた家族を助けるといった施策を通して、恵まれない人々を援助すること、d) 救済的なクラスや指導的なプログラムやカウンセリングを通して、若者へアウトリーチしていくことに加え、成果の上がない人をレベルアップすること、です。

シンガポールの家族へのサービスには、働いている家族やニーズのある家族へのサービスが含まれています (Ang,1997.4)。社会が発展していくとともに、就労している夫婦が増えてきました。このため、子どもたちに重要な機能しうる価値を伝達し、親と子に良い相互作用を進めるという緊急のニーズがあります。仕事と子育て、健康的家族生活の釣り合いをとるために家族を援助するプログラムの需要が増しています。共働き家庭のニーズを満たすために、学校の前後に子どもたちへの質の良い養護や指導を提供するといった、家族生活教育プログラムやサービスを発展させることは重要です。これらのプログラムへの政府の供給として働く親に養護の選択肢を広げることは、特に出産を奨励することを考え、将来の世代への投資と見られています。時間的圧力を受け、役割責任の均衡を保つなかで、地方レベルでサービスを受けるのに、資源情報を見つけるのはより便利になるでしょう。地域に正しく配置されている **Family Service Centers (FSC)** は、ソーシャルサービス供給ネットワークにとって不可欠になるでしょう (Tan & Ang,2004)。

仕事と家族生活の圧力は、家族関係の緊張を引き起こすので、家族はよく知っているさまざまな援助組織による早期の相談や援助を探すことが薦められます。カウンセリングやアドバイスは、宗教的、社会的、文化的、草の根的、専門的な組織で利用でき、援助を必要とする人は、早めに援助を探せば、より良い適切な介入の選択ができるということを知っていなければなりません。より多くの人々が生活の一部としてカウンセリングやアドバイスを探すことができるようにするためには、もっと多くのことが必要です。

離婚率は年々増加しています。1980年には、非イスラム教の婚姻のうち1,216件の離婚と婚姻無効の宣言が認められました。これは1990年には2倍の3,923件となり、近年では、2003年には4,188件に上りました(DOS,2005b)。離婚は必然的により多くの家族崩壊となるため、予防的発展的プログラムがこの傾向に逆らうためには必要です。

これらの家族を経済的精神的に支えるプログラム、なかでも離婚が子どもに与える影響を最小限にするという目的は、家族への支援のなかでも時間がかかります。互いの違いや離婚にもかかわらず育児という役割を続けるために親へ援助するプログラムは、**Ministry of Community Development, Youth and Sports**、**FSCs** や他の **NGO** によって組織されています。家庭裁判所により子どもの保護問題に導入されている介入や育児計画は、子どもの福祉が違いを解決するなかで中心的位置を占めている保護者への助言になるでしょう。

現在総合的なサービスネットワークにより援助されている低所得家族は、安定し独立したレベルの機能を獲得するにつれて、首尾一貫した継続する援助が必要になるでしょう。最近の例のひとつは、**Severe Acute Respiratory Syndrome (SARS) Home Quarantine Order (HQO) Allowance Scheme** で、**SARS** による家庭隔離命令に、自営業と被用者のための経済的援助計画がありました。支給では直面している一時的な損失を補います(CDC,2003)。これらの家族が利用できる計略、サービス、プログラムは、**Helping Low Income Families- the Singapore Way** という小冊子で説明されています(MCD,1996)。

最初の **FSC** は 1976 年に、そのころの **Ministry of Social Affairs** によって **Mac.Pherson** の財産で設立されました。その次の **Ang Mo Kio** の **FSC** は 1977 年に、**Asian Welfare Association of Singapore** と **Anglican Welfare Services** の 3 つに分かれた経営によって、先の **Singapore Council of Social Services** によって開かれました。1989 年に **the Advisory Council on Family and Community Life** が忠告したように、**FSC** はコミュニティへ広範囲の家族志向のサービスを提供するために、住居供給状況によって設立されなければなりません。

これらの勧告にしたがって、4つの FSC は MCD によるプロジェクトの一部の、ボランティアな草の根組織として 1990 年に設立されました。家族にとって最初の防止センターである FSC の有効性は、政府に今日あるシンガポールの 36 の FSC を設立させるに至りました。FSC は、統合された救済的、予防的、発展的ソーシャルサービスをコミュニティの家族と個人へ、家族生活の向上を目的として提供しています。家庭生活や親の教育などの予防的発展的プログラムは、概念的には家族の健全さを維持するのに有効ですが、目標となる人々に対して実行するのは難しいこともあります。

変化や急速に変化する社会のなかにいる家族は、家族崩壊、分離、悩みに関して脆弱です。今日のシンガポールの家族の強さは、政策やプログラム、サービスの良い効果を証明しています。予防的な家族生活教育プログラムのうち、特に子どもたちや若者に家族の価値や健全な生活スタイル、その他の絶対的な社会的価値を熱心に教えることを目的としたもの、子どもたちに指導を提供したり非行を予防したりするプログラム、子どもたちや教育、技術トレーニングをとおして低所得家族を援助するプログラムはみな、シンガポールの家族の変化しているニーズを満たすために不可欠です。

国レベルでは、政府は家族を強化することを目的とする、ある範囲の政策やプログラムが必要なことを忘れてはいません。総合的計略としての家族への基本的な社会組織的供給は準備されるべきです。これには税控除、**Central Provident Fund**、住宅供給助成、基礎的ヘルスケア、教育、働く母親への支援といった財政上の激励となる支給も含まれています。社会政策とソーシャルワークへの目標は、これらの施策により給付を得ることができる人々が、家族のウェルビーイングを高めるために利用することを保障することです。個人や家族がこれらの施策により得る情報や能力の不足している場合は、ソーシャルワークの目標はつながりをもたせ、セルフヘルプの技術や動機をもたらすことです。

主としてソーシャルワーカーが勤めている、家族志向の健康センターとしての FSC は、問題が起こったときに救済的サービスを提供するだけではなく、むしろ健全を促進するために、より予防的発展的プログラムを展開することを考える必要があるでしょう。FSC が変化しているニーズに応じるために展開する革新的プログラムについての、政府やコミュニティのより多くの支援が必要です。

ソーシャルワークの発展と可能性

シンガポールにおいてと同じく、ソーシャルワークはすべての社会に影響を与える可能性

をもっています。the Singapore Association of Social Workers はソーシャルワークとシンガポール社会により大きく貢献することによって存続しています。社会の発展につれて、より多くのソーシャルワーカーが政府、ビジネス、非政府領域に必要とされています。これは、健康、産業、社会復帰の領域と同じく、家族や学校、職場、コミュニティでもソーシャルワーカーがより寄与することが望まれているということです。

シンガポールのソーシャルワーカーの展望はどのようなもののでしょうか？最近の重要なプランニング会議において、SASW は会員と社会に応え、意味のある活動的専門的ソーシャルワーク組織になることを構想しています。専門職集団は会員だけではなく、社会にも全体として、リーダーシップと方向づけ、実践の基準を示さなければなりません。ボランティアなサービスだけで SASW の仕事を維持することは困難なので、強い組織的体系を持つことが必要です (Tan,2005)。

シンガポールの専門的ソーシャルワークは、ある医療ソーシャルワーカー集団が医療ソーシャルワーカーの専門職集団をつくる可能性について議論し、結局翌年 the Malayan Association of Almoners (MAA) となった、1950 年代初期に始まりました (1992)。1952 年はまた、島の福祉職員のために学術的トレーニングを提供している Malaya 大学として知られていた経済省の社会調査部門の成立がありました (NUS,2002)。医療ソーシャルワーカーや初期のソーシャルワーク学士は、過去の戦時中に喪失、別れ、あるいは行方不明となった人のいる人や家族に対し、経済的な支援・資源と、コミュニティの支援・資源において必要不可欠な結びつきを提供していました。

しかし MAA は、増加するソーシャルワーク専門職の需要を満たすのに不十分だと分かりました。一番の重点を医学的問題に置くこととなっているために、独自の組織を必要としている専門職ソーシャルワーカーのニーズを満たすことができませんでした。このため結局は、1956 年の Schools of Social Studies Association との登録は、1960 年には the Association of Professional Social Workers (APSW) と名称を変えました (NUS,2002;Sapa'at,S. (1992)。

the Association of Professional Social Workers は、1959 年にメンバーとして認められたのち、1963 年に the International Federation of Social Workers に加盟しました。このことで、シンガポールのソーシャルワーカーと外国産のよく似たもの間に協働する機会ができました。シンガポールの独立で、植民やマレーシアの似たものから成長するソーシャルワークの独立した方向性を示しました。MAA は the Singapore Association of Medical Social Workers (SAMSW) と名称を変えました。翌年、Ann Wee の指導のもと、学生が実践的ソーシャルワークの準備をすることを目的として、シンガポール国立大学にソーシ

ャルワーク学部ができました。10年経ないうちに、SAMSW と APSW は the Singapore Association of Social Workers(SASW)へと合併され、S.Vasoo 博士が初代会長に選出されました。シンガポールのソーシャルワーカーの専門性をつくるソーシャルワーク教育の主な役割は承認されています。

シンガポールの独立と、その後の英国軍基地の撤退によって、ボランティア数が激減しました。ボランティアの大多数は英国軍人の妻だったため、シンガポールのソーシャルワークの目標は、これら妻たちが担ってきた役割をする地元の人々のトレーニングとなりました。これにより、SASW ではトレーニングされたヘルパーの供給に不可欠な Volunteer Training Bureau が設立されました。

しかし 1980 年代にはいと、シンガポール政府はソーシャルワーカーのトレーニングや基本的福祉ニーズの充足の保障から、家族生活の向上を強調するようになり、政策の方向転換は、コミュニティディベロップメントやグループワークへのソーシャルワーク部門の新しい焦点により反映されました。1988 年には、家族サービス団体に対する相談を提供するのに加え、家族問題やウェルビーイングについての研究を促進することを目的として、Family Studies Group ができました。

1991 年には、家族サービス組織については、サービスの供給により専門的アプローチをすることが必要であるとする the Family Resource and Training Centre が家族サービスのための資源センターの必要性に応え設立されました。ここに the Singapore Association of Social Workers は初めて常勤の管理職を雇いました。さらに、19 世紀には Singapore Social Service Training Institute と the Academy of Human Development を含め、ソーシャルサービスの専門職の基準を強化するため、多くのトレーニング組織が発展しました。

それに対し、執行部委員会は SASW へ、ソーシャルワーカーの功績を示す臨床トレーニングやモデリング、開拓や資源開発といったプロジェクトでソーシャルワーカーがすでに実施しているものを詳細に記録することによって、ソーシャルワークの貢献を宣伝する必要があるとみなしていました。相談サービスに加え、ソーシャルサービスの調査や評価は必ず、SASW の計画表の一部になるでしょう (Tan,2005)。責任として強調されている調査と評価は、専門職の知識を形成するために不可欠な刺激となっています。多くの本や出版物にソーシャルワークの文脈が含まれ (Mehta and Wee,2004)、領域を拡大しています。シンガポールの社会問題とソーシャルワークは、1990 年代の後期にはじまり、新しい千年紀に向かっています (Tan and Mehta,2002)。

より大きな関連性のため、ソーシャルワークの専門職としてのアイデンティティの強い意

識を発展させ、専門職内の他者に影響を与える必要があります。その更新過程では、ソーシャルワーカーの存在を強め、新世代のソーシャルワーカーをつくることが含まれます。SASW の会員の 3 分の 1 が 30 歳以下であることには元気づけられます。専門職の新しいメンバーへの入職指導と伝授はますます守られています。若いソーシャルワーカーに対する指導者であるスーパーバイザーのトレーニングもまた、非常に重要です。

個人によるのと同じく、組織として、**the Singapore Association of Social Workers** とソーシャルワーク専門職や教育者は、発展する政策問題により活発にかかわる必要があります。増加する「騒動」、つまり問題を論じる会員の会議で、情報を分け合い、協働のネットワークを広げ、SASW は社会生活と活動に興奮して奮えるセンターに発展しています。ギャングブル依存や過渡期にある失業率や、低所得家族といった、社会に直面している最近の問題は、創造的に取り組み、シンガポール社会に良き貢献ができるよう取り組まれています。

2004 年の **the Registration of Social Workers project** により基準を維持し、レベルアップをするなかで、専門職の発展とトレーニングは、ソーシャルサービス部門の職員を奨励するのと同じく、登録されたすべてのソーシャルワーカーから求められています。SASW は学校と医療ソーシャルワークの、異なった関係するグループやフォーラム、ワークショップ、**e-community** などといったさまざまなソーシャルワーカーのためのフォーラムを発展させてきました。SASW は、実践やトレーニングのニーズを明らかにする専門職の実践セミナーや活動を実施しています。社会的に意味のある SASW であり続けるためには、専門職の変わりゆく要請に応え、会員をソーシャルワークの異なった部門に置き続けなければなりません。

SASW は計略上重要なパートナーと有効にネットワークを保ち続けています。たとえば、SASW は質の良い有能なソーシャルワーク学士をその分野の要請に応じるために供給するためには、シンガポール国立大学や他のソーシャルワークのトレーニングを行っている機関に引き込む必要があります。前述したように、若い卒業生をインターンシップや開発的支援的プログラムをとおして円滑に移行するためには、これは不可欠のことなのです。

広い基礎をおいたトレーニングとコミュニティプログラムを含むため、SASW のトレーニング部門として **FRTC** の機能拡大計画は進行中です。ソーシャルワークの知識、技術、価値、倫理の向上を含め、実践やサービスに対する良い基準をますます社会は求めています。

従事者やソーシャルワーカーとしてする仕事、他の専門職とともにする仕事は、参考とされる基準が必要です。IFSW はソーシャルワークに関しては固有の資格をもち、基準を与え

ることを求めています。適格とする条件は、シンガポールでは Workforce Development Agency を通して実施されます。SASW の Professional Development Framework を発展させるための提案では、調査や証拠としてあげた資料、サービスの有効性評価や証拠に基づいた実践の経験的な基準を強調しています。このように、行く手の課題は、ソーシャルワークを国やシンガポール人のウェルビーイングの社会進化のために実践的、有効的に貢献する第一等の専門職として発展させることです。

むすび

多くの逆境にもかかわらず、シンガポールは住宅供給、ヘルスケア、教育、そして家族とコミュニティの生活といった社会的供給の多くの場面で成功してきました。シンガポールの政府の作戦やコミュニティディベロップメントがうまくいったのは、異なった地位や民間やコミュニティの組織、ビジネスや教育機関といった、まさに社会文化的、宗教的組織のすべてのネットワークを指揮する能力と、個人や家族のニーズを明確にし、人類の福祉を高める政策やプログラムを指揮できたからです。

この政策やソーシャルサービス供給モデルは、問題を扱う長期的見通しをもって、予防と発展を強調しています。それは現存している「救済的」なものより統合的なアプローチで、個人と家族をエンパワーし、社会の構造を強める手段となります。

ソーシャルワーカーの活動はシンガポール社会の福祉に貢献しています。ソーシャルワークは専門職としての実践の基準を向上し貢献し続けるでしょう。SASW の新しい指針は社会全体に加え、ソーシャルワーカーやソーシャルワークサービス部門に戦略上リーダーシップをもたらすことができるようになるでしょう。経済発展に加えて、社会発展の戦略はどの人間社会の質を高めるのにも不可欠です。